

10/6 実施

企 業：株式会社長谷萬

テーマ：木材を木ダボでつなげてつくるエコな「木質素材」

Q：DLTは異素材との加工・組み合わせは可能ですか？

A：可能です。ただ、DLTは木ダボを利用し接着剤を使っていませんので、製造・廃棄の環境負荷が小さいところがポイントになります。「木材だけでできている」という点が個性になりますので、他の素材との組み合わせが果たして良いのかどうかは、一概にはいえません。コンセプト次第でしょうか。

Q：DLTは劣化した場合、修理することは可能でしょうか？

A：DLTを解体修理はできませんが、一般の木材と同じように、割れや欠けがあれば象嵌（ぞうがん）補修が可能です。ただし、木の色が経年で変色したり、湿気による膨張や縮み等の変形が起きたりした場合などにはその都度対応するというような形になるかと思います。

Q：組み合わせた板材の1本や木ダボだけが痛んだり腐ってしまった場合は、該当箇所のみを外しての修理はできますか？

A：一部分のみを変えることはできません。手間やコストを鑑みても一部ではなくパネルごとの取り替え、修理の対応になるでしょう。なお、屋外での利用の場合は劣化対策のために薬剤での処理などを適宜行います。

Q：DLTの耐用年数はどのくらいでしょうか？

A：雑貨やインテリアとして使用する場合、破損などが無い限りはかなり長くお使いいただけてと考えています。DLTと一般木材とを比較し、耐用年数に違いはないと考えています。

Q：例えば椅子やテーブルなどの家具として使用できる強度はありますか？

A：それぞれの用途にあわせたデザインや設計であれば問題ありません。DLTは既に構造用の建材として利用されておりますので、一般の木材と同じように考えていただければと思います。

Q：既に家具として使われている事例はありますか？

A：棚やベンチの当社作成事例があります。こちらは特注対応品のため、商品として一般流通はしておりません。

Q：木に既に穴が空いたものをユーザーが組み立てる、ということは可能でしょうか？

A：組み立てをユーザーが行うということですね？過去に事例はありませんが、不可能ではな

と思います。しかし、穴とダボの精度に問題が生じる可能性が高いです。1mmの誤差でも、乾燥や収縮もあいまって木ダボが入らなくなるズレにつながります。そこに余裕を持たせるのであれば、穴を多少ルーズにしなければいけないので、パネルにした際の剛性に課題が出そうですね。

Q：期待する提案は、BtoB でしょうか BtoC でしょうか？ご希望はあるのでしょうか。

A：特にこだわりはありません、デザイナーさんからの自由なアイデアの提案を楽しみにしています。

Q：中小の製材事業者でも加工が可能と伺いましたが、既に各地の業者とのネットワークは構築されているのでしょうか？

A：まだありません。今現在、当社にお声がけいただいた企業さんとネットワークをつなげていこう、といった段階です。

Q：各地の業者と技術協力や提携をするとなった場合、技術料やロイヤリティーをいただくような形になるのでしょうか？

A：そのあたりの事業モデルも検討中です。仮に、弊社特有のノウハウや知財をご活用いただく場合には、なんらかのロイヤリティーをいただくことになるかと思います。知財面も含めてどのように広めていくのか、というのは課題の一つです。技術ネットワークを構築するような、ビジネスのご提案もあれば歓迎したいですね。